

## 用語解説

用 語		解 説
あ	I T	「Information Technology」の略。情報通信技術。コンピュータやインターネットなど、情報通信技術からその応用利用場面まで広く使用されているありとあらゆる情報システム、技術手法の総称。
	アイデンティティ	自分が自分であるという独自性、主体性。地域におけるアイデンティティとは、他の地域とは異なった地域の特性、個性のことで、南丹地域が持つ確固とした南丹らしさをいう。
	アユモドキ	ドジョウ科の淡水魚で、国指定の天然記念物。現在では、南丹地域の桂川流域と岡山県旭川水系のみに生息し、絶滅が危惧されている。姿が鮎に似ていることからその名が付いたともいわれている。
い	インターネット	コンピュータネットワークを相互につないだ、さまざまな組織の世界規模のネットワーク。電子メールやホームページなどを利用して、世界中の人々と情報交換を行うことができる。
う	ウッドマイレージCO <sub>2</sub> 認証制度	府内で生産された木材の産地証明に加え、輸送時に排出される二酸化炭素量（ウッドマイレージCO <sub>2</sub> ）を数値で示すことで、地域の木を利用することによる温暖化防止対策を進める制度。
え	エコツーリズム	エコロジー（生態学）とツーリズム（自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動）を組み合わせた造語。動植物などの自然資源に恵まれた地域で、自然環境との共存を図りながら、自然観察を行ったり、地域独自の文化や歴史を学んだりする滞在型の観光のこと。
	エコミュージアム	収集・保管・展示を行う従来の博物館とは異なり、地域の自然や生活を含む環境全体を保存・展示し、体験・活用することによって、地域の発展を目指そうというもの。南丹広域振興局では、森林の恵みを再発見・活用する取組を出発点に据えている。
	N P O	「Non Profit Organaization」の略で、営利を目的とせずにさまざまな活動を自主的・自発的に行う組織・団体。これらの団体が法人格を取得する道を開き、その活動を促進するため、1998（平成10）年に「特定非営利活動促進法（N P O法）」が制定された。
か	環境負荷	生態系の健全性への影響、資源エネルギーの枯渇化への影響、人間の健康への影響など、人間のさまざまな行為に伴って生じる環境への影響のこと。
	環境保全型農業	農業生産活動に起因する環境負荷をできるだけ少なくするために、有機性資源を循環利用した土づくりを基本に、化学肥料や化学農薬の使用量を減らすなど、環境に配慮した農業生産を行うこと。

用 語		解 説
き	危機	①自然災害、②人為災害、③戦争・テロ災害に分類する場合、南丹地域振興計画の実践プランにおいては、地域特性を踏まえ当面重点的に取り組むべき対象として、①自然災害と②人為災害を「危機」としてとらえ記述している。
	協働	住民・NPO・企業・行政など複数の主体が、対等な立場で、それぞれの特性を認め合い、活かし合いながら、共通の目的に向かって行動すること。
	京都議定書	1997（平成9）年12月に京都で開催されたCOP3（第3回締約国会議）で採択された気候変動枠組条約の議定書。温室効果ガスを先進国全体で1990年レベルより5.2%減らすことが決められた。ロシアの批准により、批准国の排出量合計が世界全体の一定割合以上を占めなければならないという発効の要件を満たしたため、2005（平成17）年2月16日に発効した。
	京都こだわり農法	たい肥と有機肥料による健康的な土づくりや輪作を基本とする京都の伝統的な栽培方法と最新技術（天敵昆虫、土壌微生物、植物ワクチンの活用等）を組み合わせた京都独自の生産方式。
	京都新光悦村	京都府が園部町に整備を進めている新しいスタイルの産業拠点。江戸時代初期に、本阿弥光悦が京都鷹ヶ峰に形成した「光悦村」では、さまざまな分野の工人が交流して、新しい技や表現が生み出されたといわれているが、そうした精神の継承をめざすもの。2006（平成18）年9月から分譲開始。
	京都府食の安心・安全推進条例	2006（平成18）年4月から施行。積極的な情報公開を基礎として、行政、府民のみなさん、農林漁業者を含む食品関連事業者の方々が一体となって、それぞれの施策や取組を総合的・計画的に推進することにより、食の安心・安全を確保していくことを目的としている。
	京都府地球温暖化対策条例	2006（平成18）年4月から施行。京都議定書の誕生を機に、府内の地球温暖化対策のさらなる推進を図るため制定したもの。温室効果ガスの排出量の削減目標を設定するとともに、事業活動、建築物、緑化の推進、自動車交通、電気機器、自然エネルギー、森林整備など、幅広い地球温暖化対策を盛り込み、取組を総合的に推進していくこととしている。
く	グリーンツーリズム	ゆとりある余暇を過ごしたいと願う都市住民が、農山村などを訪れ、その自然や文化にふれながら、農林業体験や地元の人々との交流を通して心身をリフレッシュしようとする新しい観光の形態をいう。
け	CATV（ケーブルテレビ）	有線テレビジョン放送。山間部や人口密度の低い地域など地上波テレビ放送の電波が届きにくい地域で、テレビの視聴を可能にするために生まれたが、近年は地域番組や行政情報チャンネル、インターネット接続サービス、CATV電話などの登場に伴い、地域の情報通信基盤として期待が高まっている。
こ	耕畜連携	米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、逆に、耕種農家の生産する稲わらや転作田等につくった飼料作物を畜産農家の家畜の飼料として供給するなど、耕種サイドと畜産サイドの連携を図ること。
	高病原性鳥インフルエンザ	鳥インフルエンザはインフルエンザウイルスの感染によっておこる鳥の病気で、そのなかでも鳥に対して病原性の高いH5型とH7型が「高病原性鳥インフルエンザ」と呼ばれている。2004（平成16）年2月に旧丹波町で、国内3例目となる鳥インフルエンザが発生した。
	高齢化率	全人口に対する65歳以上人口の割合。

用語		解説
こ	国民文化祭	1986（昭和61）年から毎年全国各府県を巡回して行われている「国民の文化の祭典」。全国各地でさまざまな文化活動を行っている人々が一堂に集い発表し交流する国内最大の文化イベント。2005（平成17）年に、2011（平成23）年に開催される第26回大会の京都府開催が内定した。
	コミュニティ	日常の生活を送っている地域社会。地域に暮らす人たちが、互いに理解し合い、連帯意識を持って心地よく暮らすことができるような場をつくり維持している社会、あるいは、そのような人々のつながり。
	コミュニティビジネス	自分たちのアイデアと地域にある資源（労働力、原材料、技術力など）を活用して取り組む地域密着型の小規模ビジネス。利益の追求に加え、地域の中のさまざまな課題の解決をめざすもの。
	コラボ	「コラボレーション」の略で、共同作業、共同製作。また、企業同士の共同開発などにもいう。
さ	SARS	新型肺炎（重症急性呼吸器症候群）で、38度を超える高熱や、せき、呼吸困難などの症状を引き起こす感染症。2003（平成15）年5月にSARSに感染していた台湾人医師が亀岡市など京都府内を通過した。
	里山	場合・目的によりいくつかの概念があるが、本計画では農村の生活との関連で利用される薪炭林など人の手で造られ管理されている森林のことをいう。
	山陰街道	京都から老の坂を越えて丹波、さらに山陰方面へと通じる街道。街道沿いは宿場町として栄えてきた。
し	持続可能	1987（昭和62）年の国連「環境と開発に関する世界委員会」報告書の中の「持続可能な開発（sustainable development）」に基づく言葉。環境と開発を相反するものではなく、共存し得るものとしてとらえる考え方。
	循環型社会	生産、流通、消費、廃棄という社会経済活動の全段階を通じて、再資源化やエネルギーの効率化を進め、環境への負担をできるだけ軽くしようとする循環を基本とした社会のこと。
	生涯学習	誰もが、学齢期だけでなく、生涯にわたって、いつでも、それぞれの目的に応じて、自由に学習機会を選択して学ぶこと。
	障害者自立支援法	2006（平成18）年10月から本格施行。これまで障害種別ごとに異なる法律に基づいて提供されてきた福祉サービス、公費負担医療等について、共通の制度の下で一元的に提供する仕組みを創設。利用者負担については、これまでの所得に応じた負担から、定率負担（1割）となった。
	情報公開	行政機関等の持っている情報を、誰もが知りたいときに知ることができるよう、外部に対して開示すること。
	食育	食育に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的に、2005（平成17）年7月に施行された「食育基本法」では、「①生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの、②様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」としている。

用語		解説
し	新型インフルエンザ	これまでヒトに感染しなかったインフルエンザウイルスが変異して、ヒトからヒトに感染するようになったものをいう。鳥インフルエンザウイルスが変異して、新型インフルエンザウイルスになることが警戒されている。新型インフルエンザが発生した場合、ヒトはそのウイルスに対して免疫を持たないことから、病気が急速に広まり、症状も重症になる恐れがある。
	新京都府総合計画（新府総）	2001（平成13）年から2010（平成22）年を計画期間とする京都府の総合計画。「むすびあい、ともにひらく新世紀・京都」を基本理念としている。また、「地域別の整備の方向」の中では、南丹（中部）地域のめざすべき方向性として、「自然と調和した都市・田園定住圏の形成」を掲げている。
	森林の多面的機能	木材生産・国土保全・水源かん養・二酸化炭素の吸収等人に有益な役割を同時に発揮している森林機能の総称をいう。各機能の種別は32頁参照。
	森林ボランティア	林業の担い手の減少を補い、森林の下草刈りなどの森林管理を手助けするボランティアのこと。ボランティア活動を通して、森林の重要性や必要性を学ぶ。
す	水源のかん養	樹木や落葉、森林土壌の働きにより、雨などの地下浸透を促し、ため込んだ水を徐々に流出させる森林の機能。洪水や渇水を防ぐ役割を果たす。
せ	セーフコミュニティ	事故や自殺等による死亡やけがは予防できるという理念のもと、科学的データから事故等の原因を調べ、地域のさまざまな主体が協働して、安心安全の取組を進めるもの。スウェーデンで始まり、現在、世界の100以上の地域がWHO（世界保健機関）の認証を取得している。京都府では、亀岡市と連携し、同市をモデル地域として、日本初の認証取得に向けた取組を進めている。
	専門職員派遣	京都府の府民参画の取組の1つ。府民のみなさんが実施される地域活動などに対して、専門的な研究等を行う府の試験研究機関の職員が直接出向いて助言等を行うもの。
た	WHO	世界保健機構。 健康を人間の基本的人権の一つと捉え、その達成を目的として設立された国際連合の専門機関（国連機関）。
ち	地域イントラネット	地域内にある学校、公民館、役場、地域情報センターなどの公共的な施設を光ファイバー網によるネットワークで接続し、動画映像や音声など大容量の情報をやりとりすることができるようにするシステム。
	地域防災計画	災害対策基本法に基づき、府や市町村が、自然災害や都市型災害に対する初動体制や、避難収容、物資備蓄、応急医療救護、災害情報通信など、総合的な危機管理体制を定めたマニュアル。
	地球温暖化	石油等の化石燃料の燃焼などにより、大気中の二酸化炭素等が増加し、地表から放出される赤外線を吸収して、地球の温度が上がる現象。温暖化が進むと、海面上昇、農業・動植物・健康への影響などがおこると考えられている。

用 語		解 説
ち	地産地消	「地元生産―地元消費」を略した言葉で、「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味。消費者の食に対する安心・安全志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取組として期待されている。
	中山間地域	行政上は、過疎、山村振興、半島振興、離島振興、特定農山村法などに基づき指定された市町村(旧村)。南丹地域では全市町が中山間地域を含んでいる。
	中心市街地の空洞化	車社会の進展等により、商業機能やサービス機能が都市郊外に流出し、相対的に都市中心部の集客力が低下し、活力が失われること。まち全体の魅力や地域の連帯感が失われたり、交通弱者にとって不便で住みにくい地域となる恐れがある。
つ	ツーリズム	観光事業、観光旅行
と	特産林産物	森から得られるもの(林産物)のうち、普通の材木以外の産物の総称。きのこ、山菜、薬草、木炭、染料、特殊な用途の材木など。
な	南丹地区小学校 駅伝競走大会	「南丹地域振興計画」に基づき、南丹教育局や小・中・高校、社会体育関係者、青年会議所等との連携により、2005(平成17)年度から開催している駅伝競争大会。愛称は「キッズふれあい駅伝」。
ね	ネットワーク	網の目のような組織のことで、種々の要素が相互依存関係を持ちながら結びつき、ある程度のまとまりを形成しているものをいう。
の	農産物トラスト	生産者が消費者の出資等を受け、協働して農産物生産や加工に取り組むことによって、手作り志向や食の安心・安全志向のニーズを満たすとともに、地域の特産物の利用増進や付加価値の向上をめざすもの。
は	バイオマス	植物等の生物体によって蓄えられた有機物を取り出し、エネルギーとして利用すること。薪、木炭、木くず、廃材などの固体燃料や、家畜ふん尿の発酵によるメタンガスなどがある。バイオマスは石油と比べてなくなることがなく、使っても大気中の二酸化炭素濃度が増えないという特性があり、近年、バイオマスエネルギーを導入する動きが世界中で広がっている。森林の多い日本では、特に木を由来とする木質バイオマスが注目されている。
	パートナーシップ	立場の違うもの同士が、互いに力を合わせ、提携しながら責任を負うこと。地域づくりでは、さまざまな主体が地域課題について協議し、合意のうえに共通目標を設定し、それを相互に実現していく協力関係をいう。
	バリアフリー	障害のある人の生活の中で障壁(バリア)となっているものをとりのぞくこと。もともとは、建物の中の段差などの障壁をなくすという意味で使われていたが、現在では、障害のある人や高齢者の社会参加を困難にしている社会や制度上の障害、心理的な障害をとりのぞくという意味でも使われている。
ひ	P D C A サイクル	まず計画(Plan)を立て、実行(Do)し、その結果を点検(Check)し、反省点や成果を踏まえて見直す(Action)というサイクル。このサイクルを繰り返すことで、仕事をレベルアップしていこうという考え方。
	光ファイバー	光を用いて情報を伝達する際に、光の伝送路として用いるきわめて細いガラスファイバー。石英ガラスやプラスチックを材料とし、断面の中心部(コア)の屈折率を周辺部(クラッド)より高くすることで、光信号を減衰させることなく送ることができる。
ふ	府職員出前語り	京都府の府民参画の取組の1つ。府民のみなさんからの希望に応じて府職員を派遣し、京都府の重点施策や福祉・環境など暮らしに身近なテーマについて説明・意見交換を行うもの。

用 語		解 説
ふ	分水嶺	雨水がそれぞれ反対側に流れる線。ふつうは山脈の頂にあるので、その峰を分水嶺または分水界という。
	ブランド京野菜	京都には京の伝統野菜をはじめ優れた農林水産物が多くあるが、そのなかでも特に品質が優れ一定の生産量があるものを、「京のブランド産品」として、京都府、市町村、農林漁業団体が共同で運営する(社)京のふるさと産品協会が認定しているもの。みず菜、壬生菜、伏見とうがらし、賀茂なすなど、21品目（2005（平成17）年3月現在）が認定されている。
	ブランド京野菜等倍増戦略	京都府が、ブランド京野菜の新たな販売戦略として、2002（平成14）年12月に策定した戦略。「京都こだわり農法」による確かなものづくりを行い、京都産京野菜の魅力を強化し、ブランドイメージを高めるとともに、そのブランドイメージを多くの消費者・流通関係者に浸透させることにより、需要の開発と生産の倍増を図ることをめざすもの。
ほ	ポータルサイト	「ポータル」(Portal) は「入口」「玄関」の意味。「ポータルサイト」とは、利用者がインターネットを使って必要な情報やサービスを取得する際の入り口となるページのことをいう。
も	モデルフォレスト	森林そのものではなく、流域を単位に、林業団体と環境保全団体、上下流住民など地域の利害関係者総参加のもとに行われる、森林を核とした持続可能な地域づくりの実践活動。
ゆ	U J I ターン	Uターンは、進学や就職で出身地を離れた後、ふるさと志向等により再び出身地に戻り移り住むこと。Jターンは、出身地に近い途中の地域に移り住むこと。Iターンは、都会に生まれ育った人が、地方での暮らしを志向して移り住むこと。
	ユニバーサルデザイン	あらゆる年齢や性別、体型、障害の有無・レベルにかかわらず、誰にでも使いやすい製品等をデザインすること。特定の障壁を解消するというバリアフリーから一歩進んだ発想。さまざまな商品やサービス、ファッション、建物、設備、街、交通機関など、あらゆる分野に通用する。
ら	ライフスタイル	生活様式、暮らしぶり、生き方、生活に関する考え方や習慣。衣食住などの日常の暮らしから、娯楽、職業、居住地等の選択、社会とのかかわり方までをも含んだ広い意味での生き方を指す場合にいう。
わ	ワークショップ	会議形式や講座型など従来の形式的な住民参加の手法ではなく、参加者全員が小グループで討議し、一緒に作業をしながら目標に向かって意見を積み上げ、提案をまとめていく手法。